

自己点検・自己評価報告書

令和 7 年 3月 31日

学校法人 実務学園 浜松日建工科専門学校

[基準 1] 教育理念・目的・育成人材像等

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【1-1】 理念・目的・育成人材像は定められているか	理念・目的・育成人材像「我が国の建設産業・建設技術の振興に寄与する人材の育成と国際感覚の育成と豊かな人格を図る」と定められている。建築技術の発展に追従できる人材育成と建設産業・建築技術の振興に貢献してい	A	・授業内容について定期的に検証し時代に即したプログラムを作成する ・座学だけではなく見学授業を多く取り入れ企業との結びつきを強める事。 ・国内の建築に留まらず国際的な	・時代の流れに即した技術やプランニングを学べるよう指導する。 ・講師を選ぶに当たり、現役の建築業専門家に授業を担当して頂き、業界の現実を直に感じて貰う。 ・海外研修により国外の建築やデ	生徒必携 学則 HP
【1-2】 学校の特色は何か	・建築関連の専門的な知識と技術を学び、即戦力の人材育成が特色である。 ・2級建築士等の資格試験の合格率が、連携校の協力により、非常に高いのが大きな特色である。	A	・建築業界では若者の技術者が少ない現状で、業界の要望に応えられる技術者を輩出する。 ・2級建築士の資格のみならず、業界に必要な資格取得を目指して複数の資格を取得して卒業させる。	・卒業後に即戦力となるスキルを身に着ける事が出来るよう、補講体制を整備。 ・2級建築士以外の資格講座(宅建等)を開設し、資格試験に向けての準備が出来るよう環境を整備。	建築士等資格 取得状況
【1-3】 学校の将来構想を抱いているか	・建築・インテリアの分野で有資格者の排出と豊富な知識と技能を持った人を養成する事。 ・高校生の数が減少する中、定員確保が難しくなる為、本校の強み・魅力をより一層アピールする。	B	・在学中に2級建築士の資格を取得するようOB講話会や三者面談を通して促進した。 ・2級建築士資格等の高い合格率の確保。留学生の受け入れ態勢の構築に注力する。	・年1回のOB講話会と研究科の説明会を開催した結果、研究科進級者が対前年比で増加した。 ・本校の強みである2級建築士合格率の高さや就職率の高さをアピールし、本校の魅力を最大限打ち出して行く	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 定員[建築設計科160人・建築インテリアデザイン科80人・建築設計研究科60人]確保が、経営の根幹であり、安定した在籍数を確保する。 2 2級建築士の資格の合格率と、卒業後の即戦力が本校の最大な理念・目的であり、合格率の更なる向上を目指したい。 3 建築士設計科、既設の建築インテリアデザイン科の定着及び広報に努めたい。	1 定員確保のため、教職員一丸となった広報活動の方策を検討する。 2 資格取得のための講座開設や放課後を利用した勉強会を引き続き行う。 3 全員が広報を担当している意識を持ち、全員が経営者的な考え・行動を起こす。

[基準 2] 学校運営

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【2-4】 運営方針は定められているか	学校の目的・目標・方針は定められ、全教職員が理解している。 個々に努力目標に向かってチャレンジしている。	A	・各校が募集目標の数値を掲げ、それに向けた努力をする事。 ・教職員の意見や提言を聴取し、職員会議で方向性をまとめ、運営本部の承認のもと目標達成に尽力する。	・全教職員に高校訪問数、出願人数等の個々の努力目標を作成させ、教職員一丸となってチャレンジしている	
【2-5】 事業計画は定められているか	運営本部を通して事業計画の見直し、実行すべき計画案等が示される。 少数精鋭の教職員で現状を乗り切り、ノルマを達成する事。	A	・優秀な卒業生を世に送り出し、建築・インテリアデザインの楽しさを世に知らしめることにより、学校の事業計画がよりスムーズに実施される。	・学生数の増減が事業計画の中核を揺るがす事になるので、全教職員一丸となって募集・広報に全力を尽くす。高校訪問、オープンキャンパスや資料請求者への対応を全力で行い、出願率を上げる事。	
【2-6】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	各校の代表者(校長)が運営本部の一員としての自覚を持ち意思決定を下すので、グループ校全体のバランスが取れるよう配慮されている。	A	・個々の学校の特色を取り入れた運営方針を打ち出す事も大切。 ・グループ校とも連携により、他校でできない絆の強さ、組織力を使った事業展開を実行する。	・校長会議・募集広報会議等で決議された事項については、各校の校長が責任を持って、教職員にその趣旨を伝え実行できるよう指導して行く事が大切と考える。	
【2-7】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	人事は本校で推薦し本部で承認するシステムである。 賃金等については「給与規定」に基づき校長の教職員への評価が加算され本部で決められる。	A	・賃金については、給与規定に基づき定められている。それに伴い各教職員について校長の評価が加算される。	・校長による授業評価等については細部にわたり評価されるので、平等性は高く結果については妥当と言える。	人事考課制度 授業評価

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【2-8】 意思決定システムは確立されているか	日建工科専門学校グループとして意思決定については運営本部の承認と各校での意思決定は校長に託されている。	A	現状維持で問題ないと思われる。	・スムーズに事を進める為に必要に応じて、稟議申請前であっても、運営本部に口頭で事情を説明することによって承認を得ることが出来る。	
【2-9】 情報システム化等による業務の効率化は図られているか	全教職員が端末を持ち、情報システム化され、資料・データ等の共有化されており、効率的な運営がされている。 PCの新しいバージョンにも対応している。	B	・情報システムに精通した職員に頼ることが多く、マニュアル等の作成も検討したい。	学校内で共有のサーバーを利用しているため、常にデーターの整理を行わないと、オーバーフローするので、古くて不要なデーターは削除するよう心掛けている。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 学校運営の目的は、学生への教育と教職員の資質向上が両輪である。 2 学生への教育については、最終目標である建設業での有為な人材の育成であり、その目標を達成するために、授業だけではなく、資格取得なども推進していきたい。 3 教職員の資質向上については、個々の教職員の力量によるが、日々研鑽する姿勢が必要である。	1 両輪を効率的に達成できるように、全教職員がそれに対応できる体制を構築する。 2 教育体制の推進を図る。具体的には ①入学者の確保(H31年度の入学者60人 以上) ②2級建築士資格取得率の向上(合格率80%以上) ③退学率の減少(3%以下) 3 教職員の資質向上に努める。 ①教職員の研修会の参加(全員 1回以上)

[基準 3] 教育活動

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【3-10】 各学科の教育目標・育成人材像は、その学科に対応する業界の人材のニーズに向けて正しく方向付けられているか	育成する人材像[建設業界に役立つ人材の育成＝建築士の養成]は明確であり、業界の人材ニーズに正しく向けられ対応している。	B	・高い建築士の資格取得率があり、業界からも認知されている。建築に興味を持つ高校生が増加傾向にあり、建築の楽しさや魅力をしっかり伝える事。	・座学だけでなく、実習の時間を取り入れ、企業と連携して仕事に密着した職業体験の機会をできるだけ多くつくる事。	
【3-11】 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	本科[2年制]建築設計科、建築インテリアデザイン科、2級建築士育成のための研究科[1年制]が設置されており、教育目標に沿って、到達レベルは明確に確立されている。	A	・建築士の資格受験は、国土交通省により、定められており、到達レベルも明確にされ、それに対応したカリキュラムとなっている。	・資格取得のための知識・技術だけでなく、人間性をも兼ね備えた人材を育成できるよう挨拶・マナーなどを日々指導している。	
【3-12】 カリキュラムは体系的に編成されているか	本科[2年制]のカリキュラムを習得することで、研究科[1年制]のカリキュラムを容易に習得することが出来るよう、組織的・体系的に編成されている。	B	・2級建築士資格には十分対応できるように編成されているが、他の資格を取得できるようなカリキュラムを編成したい。 ・建築設計科と建築インテリアデザイン科の共通化と独自化を実践している。	・次年度に向けて、資格試験対策として演習の科目を設け、試験対策に十分に役立てることにした。	
【3-13】 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	各学科・研究科の目標に沿って、座学、実験・実習が構成され、それらの教科のシラバスが作成されている。	A	・指導内容が各教科の重複や漏れがないよう、シラバスを精査したい。	・毎年、シラバスを見直し、学生レベルに沿った内容であり、資格取得に対応できるものになっているかを確認する。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【3-14】 キャリア教育の視点に 立ったカリキュラムや教 育方法などが実施されて いるか	キャリア教育そのものが本校の目 標でもあり、製図・実習・実験など の科目を資格取得と併せて演習 等を通して行っている。	A	・建築士養成が、キャリア教育そ のものと見える。産業界からの講 師も多い本校であるが、講師招 請も積極的に推進したい。	・ジョブ・カード講習修了者を配置 し、キャリア教育の充実を図って いる。	
【3-15】 授業評価の実施・評価 体制はあるか	学生による教員の授業評価(5段 階)及び事務職員の事務評価(5 段階)は、評価は概ね良好であっ た。(教員4.15、事務職員4.75)	A	・年1度の授業評価ではなく、個 人面談を実施するなど、評価体 制の充実を図りたい。	・授業評価を各教職員が素直に 受け止め学生の教育・指導に生 かすことが必要であり、非常勤講 師の先生方との指導方針の統一 を図っています。	
【3-16】 育成目標に向け授業を 行うことができる要件を 備えた教員を確保してい るか	教職員は、教員免許取得者や1・ 2級建築士取得者であり、専門 性・教授性を備えた教員を確保し ている。	A	・建築専門性と関連の一般的な 資格があり、奥深く・幅広い教育 を推進するためにも、より多くの関 連資格を取得させたい。	・全教員が建築士の有資格者で あり、クオリティーの高い授業を 行っているが、学生の社会性、人 間性の教育も怠らないよう指導す る。	
【3-17】 成績評価・単位認定の 基準は明確になっている か	生徒必携にも基準が記載され、 成績単位・単位認定基準ともに明 記されている。	A	・単位認定・成績評価の基準は明 確に示され、全職員による成績会 議によって決定している。 ・テスト成績だけではなく、課題、 出席率、授業態度など多面的に 評価している。	・基準は明確になっており、課題・ レポート・製図等の提出状況に応 じて、点数の基準が明確に示され ている。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【3-18】 資格取得の指導体制はあるか	目標とする資格は、カリキュラムで明確に示され、その資格取得に向けた特別講座も実施されている。	A	・建築士以外の資格で、カリキュラムに組み込まれていないものは、演習科目や放課後に試験準備をする事が出来る。	・各種資格試験に役立つ補講や教材等についても十分であり、補講、補修の時間も設けている。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 学生を指導、育成し、有為な人材を送り出すためには、「良い教育」を実施するほかに他ならない。 2 「良い教育」とは、「企業が求める専門的な知識・技術者の育成」そのものといえる。 3 「企業が求める技術者の育成」に向けて、教育体制の充実を図らなければならない。	1 「有為な人材の育成」を達成するために、常に業界等のニーズの把握に努める。 2 企業の求める人材は、多岐に亘るが、建築士としての基礎基本を踏まえた、社会人であり、その事について着実に指導していきたい。 ①建築的な素養を身に付けた人材の育成 ②基本的マナーを身に付けた人材の育成 ③コミュニケーション能力を身に付けた人材の育成 ④時代に即した人材の育成 3 指導体制の確立を図る。 ①全教職員の協力体制の確立 ②職員研修の拡大 ③カリキュラムの見直しとシラバスの充実

[基準 4] 教育成果

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【4-19】 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	就職率(卒業者就職率41/41 [100%]・求職者就職率41/41 [100%] ・専門就職率39/41 [95.1%])となり、就職率100%を達成できた。	A	・就活選考開始8月スタートから6月となり、2年生については3月から進級前すぐに就活を始めるよう指導する。 ・研究生生についても同じく、9月の製図試験が終了する時期には内定がもらえているよう指導する。	・就職に必要な求人票等閲覧しやすいようにしておく事。 ・進路担当者にいつでも相談できるよう体制を整えておく事 ・資格を持って就活が出来るよう複数の資格を取得するよう指導する。	
【4-20】 資格取得率の向上が図られているか	2級建築士:16/22[72.7%] 宅地建物取引主任者:3/38 建築CAD:2級:5/30 福祉住環境コーディネーター:18/35 2級施工管理技士:11/43 カラーコーディネーター:6/22	A	・本科各科(2年間)、研究科(1年間)のスパンで、取得できるように資格をカリキュラムに合わせて検討し、奨励している。	・各学年で取得できる資格一覧を掲示するとともに、学生の意欲を喚起する。 ・放課後等のフォロー体制の充実が、急務であり、指導体制も整っている。	
【4-21】 退学率の低減が図られているか	建築設計科1・2年合わせて3人の退学があり、退学率3/100[3.0%]となった。進路変更と体調不良によるもの。	B	・退学率の低減を図るには、入学者のミスマッチを無くすことと学習意欲によるところが多く、体験入学の充実を図りたい。不得手な科目については担当教員がサポートできるようにしている。	・学業の遅れが退学に繋がる場合もあるので、建築製図、建築CADの授業に於いては二人体制を敷いている。	
【4-22】 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	卒業生については、建築の各分野活躍している事が確認できている。在学生については、様々なコンペティションに参加し、それなりの評価を受けている。	B	・在校生が積極的にコンクール等に参加できる為の情報提供する。 ・卒業生については隔年で同窓会を開催しているのでその機会に情報を収集する。	・建設業協会論文などのコンクールを一つ選択をして各自参加するよう指導する。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検小項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 一昨年は数名の学生が在学中に内定を決めることが出来なかったが、 本年は、求職者就職率100%達成できた。 更に学校で学んだ専門分野への就職を継続させたい。 2 2級建築士のみならず、福祉住環境コーディネーター、2級建築施工管理技術検定、建築CAD検定、宅地建物取引主任者等、業界で求められる高度な資格を取得できた。 3 退学者数は、前年度より減少したが、退学理由として友人関係の悩み	1 2級建築士の製図試験が、9月に行われるが、それまでに内定を取得できるよう指導する。 2年卒業後就職するものは1月後半から就職活動を始め早い段階で内定を取れるよう指導する。 2 各学年で取得できる資格一覧を掲示するとともに、学生の意欲を喚起したい。 3 更なる退学率の低減を図るには、学習意欲不足や友人関係の構築によるところが多く 入学後、アルバイトに専念し、学業がおろそかになる傾向にあり保護者と連携し、

[基準 5] 学生支援

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【5-23】 就職に関する体制は整備されているか	進路担当が企業からの求人やハローワークとも連携し、就職支援体制は整えている。 建築業界も人手不足が深刻な状況で求人も昨年より増加している。	A	・企業訪問、採用試験、履歴書の書き方などクラス担任と進路指導教員がコミュニケーションを取りながら組織的に指導する体制を整備。	・クラス担任だけでなく、進路担当とも連携できるようにした。また、積極的に就活が出来るよう指導するとともにハローワークとも連絡を密にしている。	
【5-24】 学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談は、主にクラス担任が担当しており、必要に応じて個別面談を実施している。	A	・学生からの相談ごとは、担当者だけに任せるのではなく、教職員全員で、情報を共有化し解決する。 ・保護者とも連絡を密にし、学校と保護者連携により対処していく	・学生の必要に応じて何時でも対応できる体制を整えている。 ・教職員をカウンセラー技術の研修会等に参加させるなどして、スキルの向上を目指す。	
【5-25】 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	入学時には特待生制度、入学後には奨学生制度があり、それぞれ活用されている。	A	・奨学金制度については、全員に周知し、学生からの要望に対応している。	・特待生制度の充実と奨学生制度の拡大を図るべく努力している。	
【5-26】 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	年度始めに全学生を対象に健康診断を実施している。	B	・学校保健室には、看護師が常駐していないが、事務職員とクラス担任が連携を密にし、円滑に行っている。	・常駐していないが、契約している学校医・看護師との連絡・連携を密にし、学生の健康管理に努めている。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【5-27】 課外活動に対する支援体制は整備されているか	年2回のスポーツ大会や建築の現場見学会等の課外活動を実施し、支援体制は整備されている。	B	・建築の現場見学会、有名建造物を見る為の校外研修等を年に2回ほど実施している。	・コンペに積極的に参加できるように、学生への情報提供や主催者側との連携を深めている。	
【5-28】 学生寮等、学生の生活環境への支援はおこなわれているか	県外出身の学生は少なく、ほとんどの学生は自宅から通学している。一部の遠隔出身者にはアパートを斡旋している。	B	・遠隔地出身者には、賃貸アパート等の物件を扱っている業社等の紹介をしているが、現状で問題は発生していない。	・特に支援すべき課題がない。賃貸アパートの業者と提携し出来るだけ安価な良い条件で借りる事が出来るようにしている。	
【5-29】 保護者と適切に連携しているか	保護者との連絡、連携を重視している。クラス担任が、各学年に1回程度保護者・学生との三者面談を実施している。	A	・三者面談には、遠隔地の保護者や保護者の仕事などにより、面談日時の設定が困難であるが、特に問題なく進められている。	・十分な連携が図られており、特に課題がないと思われる。	
【5-30】 卒業生への支援体制はあるか	同窓会組織もあり、支援しているが、系列の学校との連携のもと、卒業生の離職者にも支援している。	B	・同窓会のより活発な活動を支援するためにも、同窓会役員との連携を密にしたい。	・離職者等の情報収集が難しく、求人活動で企業を訪問した折に情報を収集したい。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検小項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 学生支援は、教育を支える側面が大きく、大切なものである。 2 充実した学生生活を送れるように、各方面から支援する必要がある。	1 支援は充実した学生生活を送れるように各種の相談、経済的支援、健康管理及び保護者との連携など、これらを充実させることが教育には大切である。 2 相談は、教職員が少ない本校では、家族的で迅速に対応できているので、継続していきたい。 3 保護者との連携は、密にすることが大切であるが、共働きをしている保護者も多く、また、学生からは「今さらこの年齢で」という感情もあるが、「期待される学校」ということから、連携を密にしていきたい。

[基準 6] 教育環境

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【6-31】 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	・教育上の必要性に十分対応できるよう、施設・設備は整備されている。 ・CAD室の全パソコンソフトをリニューアルする為に総入れ替えを実施しました。	B	・本校開校19年経過し、建物の老朽化に伴い一部雨漏り等がありましたが、随時修理しております。	・計画的に建物の設備等の点検改修できる体制は整備されている。	
【6-32】 学外実習・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	・資格取得のための学外実習、就職希望者のインターンシップは実施している。 ・海外建築ツアーを実施している。	A	・インターンシップ終了者を雇用する企業もあり、インターンシップ先の確保に努めたい。 ・海外建築ツアーは、全員参加を基本としているが、経済的理由から参加出来ない学生もいるので対策を講じる。	・教育効果を踏まえて、学外研修・インターンシップ・海外建築ツアーについて、その意義や効果について共通の認識が持てるよう指導している。	
【6-33】 防災に対する体制は整備されているか	毎年9月1日の防災訓練を行うとともに、防災設備メンテナンス会社と契約し、定期点検を実施している。	B	・防災計画により、防災組織・役割及び活動内容が定められている。建築の授業の一環として防災のことを学んでいる。	・いつ起きてもおかしくない東海地震に備えて、日々防災計画を見直している。 ・毎日、教室・実習室・製図室の防災機器等の点検を行い、不備があれば、その都度、修理等をしている。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 施設・設備は指定基準を満たし整備されているが、メンテナンスを計画的、定期的に行い、教育上有効に機能するようにしなければならない。 2 学外研修・インターンシップ・海外研修などは、学校での授業とは違い、生きた教材でもあり、大いに実施していきたい。 3 防災訓練だけでなく、建築技術者の養成の本校にとっては、防災に対する心構えや地震に対する知識・技術を学習させなければならない。	1 小規模校の本校にとって、施設・設備には余裕があるが、メンテナンスを怠ることなく実施して行きたい。 2 学外研修・インターンシップ・海外建築ツアーは、建築を学ぶものにとって必要なことであり、充実を図って行きたい。 3 日々、教室・実習室等の防災機器、設備等の点検を行い、点検簿に記入しているが、継続していきたい。

[基準 7] 学生の募集と受け入れ

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【7-34】 学生募集活動は、適正に行われているか	学校案内パンフレット・募集要項、掲示ポスターを作成し、各高校や希望者に配布し、広報に努めている。また、インターネットを媒介にホームページ等で行っている。	A	・過去の学生募集活動を分析し、募集活動を展開している。高校訪問にあつては訪問先の高校から本校への入学者数、体験者数、資料請求者数のデータ等を提示し、本校への関心度を伝えるようにしている。	・こまめに高校を訪問するとともに、高校生のニーズを把握するよう努めている。 ・ニーズを分析し、オープンキャンパスやガイダンスに生かせるように工夫して行く。	
【7-35】 学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	就職実績・2級建築士等の資格取得実績をパンフレットやリーフレット、ポスター、インターネット等でアピールしている。	A	・就職実績、2級建築士等の取得実績が、高校生にとって魅力的なものである事を伝える。	・本校の強み(資格合格率・就職率)や建築の楽しさをアピールする方法を絶えず検討している。建築業界の活性化に伴い、人員不足が叫ばれている今日、有効求人倍率の高さをアピールしている。	
【7-36】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入学希望者には、体験入学を勧めており、入学者の100%は体験入学に参加した。入試は、一般選考、AO選考、特待生選考ともに、公平基準で行い、会議で決定している。	A	・学生募集要項に記載し、明確な基準を設けている。AO入試についても県のアドミッション活動を明確打ち出している。	・AO入試についてはアドミッション活動を明確に改善した。	
【7-37】 学納金は妥当なものとなっているか	グループ校全体で学納金を決めているが、妥当と認識している。	A	・他校と比較しても、適切なものとなっている。	・課題は特に感じていない。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 高校生の減少・大学進学志向などにより、先が読めない厳しい状況にあるが、就職実績・資格取得率など教育効果を正確に伝える工夫をしなければならない。 2 入学者の体験入学参加率は、100%と高く、体験入学に参加させる方法を検討しなければならない。 3 入学選考は、一般選考、AO選考、特待生選考ともに公平に行なわれているが、「建築専門科目は難しい」との評判があり、高校を卒業程度の学力があれば建築士資格を取得できることを高校側に広報したい。	1 専門学校と大学との違いを明確に示し、専門学校の良さをアピールする。 2 体験入学参加者の増加が、入学者の増加に繋がるので、体験入学の必要性を保護者等にも伝えていきたい。 3 AO選考のアドミッション活動を改訂し、高校側から評価を得ているので高校生のニーズ・意識を考慮し、更に改善していきたい。

[基準 8] 財務

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【8-38】 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	今年度、募集定員に近い数字となったので、財務基盤は安定している。	A	・まずは募集人数を定員になるよう、募集・広報活動を活発化して行く。 ・建築の魅力を高校生たちに伝える必要がある。	・高校生の減少と大学進学志向により、専門学校入学者が減少傾向にあり、中長期の展望を構築する為にも、常に専門学校の魅力を伝えられるように準備をする。	
【8-39】 予算・収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	予算・収支計画は妥当といえる。 予算に見合った事業計画を立て、少しでも多くの利益を生むよう努力して行く。 学生数が増加したことにより、売り上げも対前年比として増加した。	A	・年度の事業計画を作成し、その実現のために適正かつ適切に予算が決定されている。	・唯一、学生募集状況にかかっているため、入学者の人数を増やす手立てを検討し実行すること。	
【8-40】 財務について会計監査が適正に行われているか	グループ校全体で公認会計士の指導のもと適正に行われている。	A	・県の補助金を申請しているが、グループ全体で公認会計士の指示に従い適切に行っている。	・特に課題を感じない。	
【8-41】 財務情報公開の体制整備はできているか	財務書類等閲覧規定があり、「財務書類等閲覧申請書」により、申請があれば規定の範囲で閲覧できる。	B	・財務書類をファイル化し、事務室で管理しており、求められれば閲覧できるようになっている。	・特に課題を感じていない。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 学納金が、収入源であり、大変厳しいので、学生の確保と退学者の減少に努めることが依然重要である。 2 財務については、法人として公認会計士の指導のもと、適正に処理されているので、継続して適正に処理していく。 3 財務情報の公開については、求められれば閲覧できる状況にあり、今後もこの方向で検討する。	1 学生確保と退学者の減少に全教職員一丸となって、全教職員経営者の視点で当たっていく。 2 財務情報の公開は、閲覧希望もないことから、今後ともこの方向で検討したい。

[基準 9] 法令等の遵守

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【9-42】 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準等は遵守され、適正な運営されている。	A	・監督官庁(県私学振興室、国土交通省の許認可)を受け、適正かつ適切に学校運営がされている。	・法令・設置基準等が遵守され、運営されているので、特に問題はない。	
【9-43】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報関連の資料は施錠できる保管庫に保存している。パソコンのデーターなどはパスワードを設定している。紙ベースのデーターはシュレッダー処理を徹底している。	A	・個人情報規定があり、規定に基づいて運営されている。	・特に問題は感じていない。	
【9-44】 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価に実施については、問題が持ち上がった時点でその都度解決を図るようにしている。	B	・自己点検・自己評価は定期的の実施している。今後はフィードバックするようにしたい。	・個人評価の受け止め方、解釈の仕方など多様であるが、個々の成長のためにも評価を活用している。	
【9-45】 自己点検・自己評価結果を公開しているか	2020年度5月よりホームページ上で公開することとしている	A	・HP上に公開することとした	・学校関係者評価についても外部委員に委託し、実施の上HPで公開することとした	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 法令・設置基準(定員・年間授業時数・校舎面積など)は、遵守され、適正に処理されているので、今後も適正に運営していきたい。 2 自己点検・自己評価は、定期的の実施しているので有効活用する	1 法令・設置基準は、遵守され、適正に処理されているので、次年度も適正に運営していきたい。 2 自己点検・自己評価は、様式・方法、そして、結果をどのように教職員にフィードバックするかなど検討していきたい。

[基準 10] 社会貢献

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【10-46】 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	ご要望にお応えして、高校の来校型実習授業や県内の建築業界団体への教室の提供を行っている。 昨年は2校からの要望に応える事が出来ました。	B	・可能な限り教育資源や施設の提供をしたいと考えている。 高等学校からの体験学習の要望が増えていますので、出来るだけ受け入れて参ります。	・地域に支えられてこそその学校であり、本校の教育資源は要望があれば提供している。 建築CAD、建築模型の実習を提供しています。	
【10-47】 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	年1回、学校周辺地域の歩道上のゴミ拾いを全校生徒にて実施している	B	・学生個々の取り組みに負うものであり、奨励に努めたい。	・機会あるごとにホームルーム等で学生に奨励し推進している。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 学校の教育資源や施設等の活用は、地域とともに生きていく専門学校にとって有意義なことであるが、少ない教職員、狭い教育施設の中で実施することには、大変困難である。 2 ボランティア活動の奨励・支援については、学生個々の取り組みに負うものであるが、評価等を含めて検討することが必要であろう。	1 学校の教育資源や施設等の活用は、地域とともに生きていく専門学校にとって重要であり、関連企業や業界と連携し検討していきたい。 2 ボランティア活動の奨励・支援については、学生個々の取り組みに負うものであるが、支援するためには、単位認定するなど参加するメリットも含めて検討したい。